

スーパーサイエンスハイスクール（SSH）及び ワールド・ワイド・ラーニング（WWL）の指定について

1 令和2年度スーパーサイエンスハイスクール（SSH）について

① 事業概要

文部科学省では、将来の国際的な科学技術人材を育成することを目指し、理数系教育に重点を置いた研究開発を行う「スーパーサイエンスハイスクール（SSH）」事業を平成14年度から実施している。

SSHでは、通常指定の「基礎枠」と科学技術人材の育成に係る更なる取組を行う「科学技術人材育成重点枠」がある。本県における既SSH指定校は、宮崎北高等学校*の1校のみであったが、今春、延岡高等学校と宮崎西高等学校・宮崎西高等学校附属中学校の2校が応募し、2校とも令和2年度SSH「基礎枠」に採択され、本県のSSH指定校は、合計3校となった。

* 宮崎北高等学校は、「基礎枠」及び「科学技術人材育成重点枠」の両方の採択校である。平成31年度に第IV期指定（指定期間5年：平成31年度～令和5年度）を受けた。

② 審査結果、応募状況、審査方法

全国56校から実施希望調書の提出があり、提出された実施希望調書について、外部有識者からなる企画評価会議協力者が審査を行い、その結果をもとに28校が内定した。

③ 2校の研究開発課題

学校名	研究開発課題
延岡高等学校	「工都のべおか」でSTI for SDGs人材を育成するカリキュラムの開発
宮崎西高等学校 ・宮崎西高等学校附属中学校	未来イノベーションを牽引する人材を育成する中高一貫した宮西型「STEAMプログラム」の開発

④ その他（参考）

全国のSSH指定校数は、217校（うち令和2年度新規採択28校）

2 文部科学省事業「ワールド・ワイド・ラーニング（WWL）コンソーシアム構築支援事業」

① 事業要旨

未来ある高校生に対し、高度な学びや海外留学プログラムを提供し、新たな社会を牽引する人材（イノベーター）を育成する仕組みを構築する。

② 事業目的・効果

社会の大きな変革としてSociety5.0の到来を踏まえ、将来、新たな社会を牽引し、世界で活躍できるビジョンや資質・能力を有したイノベーターを育成するため、高等学校等と国内外の大学、企業、国際機関等が協働し、高校生へ高度な学びを提供するネットワークを構築する。将来的に文理両方を学ぶ高大接続改革にもとづくコンソーシアムへとつなげることを目指す。

③ 令和2年度採択校（12校）

学校法人富士見丘学園 富士見丘高等学校	国立大学法人 広島大学附属福山中・高等学校
長野県上田高等学校	国立大学法人 愛媛大学附属高等学校
京都府立鳥羽高等学校	学校法人中村学園 中村学園女子高等学校
学校法人同志社 同志社国際高等学校	長崎県立長崎東中学校・長崎東高等学校
国立大学法人 大阪教育大学附属高等学校平野校舎	熊本県立熊本高等学校
岡山県立岡山操山中学校・高等学校	宮崎県立宮崎大宮高等学校

④ 事業構想名

「食」を通じてゆたかな世界を協創するイノベーターの育成

Society5.0に向けた高等学校改革パッケージ



スーパーグローバルハイスクール
506百万円 (843百万円)

- ◆ 国際化を進める国内の大学のほか、企業、国際機関等と連携して、グローバルな社会課題を発見・解決し、様々な国際舞台で活躍できる人材の育成に取組む高等学校等を指定し、質の高いカリキュラムを開発・実践する。
<H31年度：67校(継続指定)>

スーパープロフェッショナル
ハイスクール
97百万円 (149百万円)

- ◆ 社会の変化や産業の動向等に対応した高度な知識・技能を身に付け、社会の第一線で活躍できる専門的職業人を育成するため、先進的な卓越した取組を行う専門高校（専攻科を含む）を指定し、実践研究を行う。
<H31年度：20校(継続指定)>

Society5.0に向けたリーディングプロジェクト

これまでの事業成果を活用

新たな社会を牽引する人材の育成

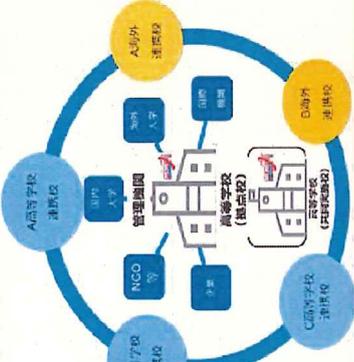
共通して求められる力の育成

WWL (ワールド・ワイド・ラーニング) コンソーシアム構築支援事業
167百万円 (新規)

- ◆ 将来、イノベーションなグローバル人材を育成するため、高等学校等と国内外の大学、企業、国際機関等が共同し、高校生へより高度な学びを提供する仕組みを構築するとともに、テーマ等を通じた高校生国際会議の開催等や高等学校のアドバンス・ラーニング・ネットワークの形成により、WWL (ワールド・ワイド・ラーニング) コンソーシアムにおける拠点校を目指す。
✓指定校数：10校程度 (15百万円程度/年・校、および幹事校1校程度)

【取組例】

- ・国内外の高校生が参加する「高校生国際会議」等を開催
- ・短期・長期留学や海外研修をカリキュラムの中に体系的に位置づけ
- ・大学教育の先取り履修を単位認定する取組など高大接続による高度かつ多様な科目内容のプログラムを用意 等



地域との協働による高等学校教育改革推進事業

- ◆ 高等学校が自治体、高等教育機関、産業界等と協働してコンソーシアムを構築し、地域課題の解決等の探究的な学びを実現する取組を推進することで、地域振興の核としての高等学校の機能強化を図る。
✓指定校数：50校程度 (1校6百万～10百万程度)

- 学校・地域のニーズに応じた類型で実施 ●
<地域魅力化型> <普通科中心20校程度>

地域課題の解決等を通じた学習を各教科・科目や学校設定科目等において体系的に実施するためのカリキュラムを構築

- <グローバル型> <学科共通20校程度>

グローバルな視点を持ってコミュニティを支える地域のリーダーを育成

- <プロフェッショナル型> <専門学科中心10校程度>

地域の産業界等との連携・協働による実践的な職業教育を推進し、地域に求められる人材を育成

スーパーサイエンスハイスクール ※継続
2,309百万円 (2,219百万円)

※運営費交付金中の推計額

- ◆ 将来のイノベーション創出を担う科学技術人材を育成するため、教育課程等の改善に関する研究開発を含めた先進的な理数系教育を実施している高等学校をSSHに指定し支援。
✓指定校数：H31年度新規指定 50校程度 (750～1200万円程度/年・校、指定期間5年)

【基礎枠 取組例】

- ・学習指導要領の枠を超え、理数を重視した教育課程を編成
- ・主体的・協働的な学びを重視
- ・研究者の講義による興味関心の喚起やフィールドワーク等による自主研究の取組
- ・上記取組を高大連携や企業連携等により高度に実施

【重点枠 取組例】

- ※更に高度な取組には追加支援(500～1300万円/年・校)
<H30年度：14校>
- ・高大接続による人材育成手法の開発・実証
- ・カリキュラムや指導手法等の広域普及
- ・海外の研究機関等との連携による共同研究
- ・企業等との連携による地球規模課題の解決

400百万円 (新規)

